

平成22年3月4日（木）
愛知県地域振興部航空対策課
空港企画グループ
担当 羽根田・松波
内線 2275, 2284
(ダイヤルイン)052-954-6131

緊急雇用対策 県営名古屋空港利用実態調査結果について

愛知県は県営名古屋空港協議会（事務局：名古屋商工会議所）にご協力いただき、県営名古屋空港の利用者の特性や旅行目的などを把握し、空港の利便性向上や利用促進を図る参考とするため、利用実態調査を実施しましたが、その調査結果がまとまりましたのでお知らせいたします。なお、本事業は緊急雇用創出事業基金事業として実施いたしました。

調査結果の要約

ビジネス利用の割合が高い

○今年度で4回目となる調査で、旅行目的では通常期では、商用・公用などビジネス利用の割合が高い傾向が明らかとなった。また、性別では男性の利用割合が高い。

調査項目	内容	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成21年度
旅行目的	商用・公用	45.2%	53.9%	55.7%	50.9%
	私用	21.1%	25.8%	24.6%	26.5%
	観光（個人）	17.6%	11.6%	14.8%	18.4%
	観光（団体）	10.2%	4.5%	2.7%	2.2%
性別	男性	69.4%	72.3%	75.4%	71.7%
	女性	28.7%	25.5%	23.7%	28.3%

※調査実施期間：平成17年度 平成17年 5月24日～30日
平成18年度 平成18年 6月 1日～ 7日
平成19年度 平成19年11月27日～12月 3日
平成21年度 平成21年 7月10日～16日（通常期分）

○県営名古屋空港を利用した理由は、「家・会社に近い」、「発着の時刻が都合よい」、「駐車場が5日間無料」

○通常期はビジネス利用が約5割、繁忙期（盆期間）は約7割が私用での利用

○空港利用の際の交通手段は6割が自家用車

○繁忙期（盆期間）の空港利用者数は通常期の6割増、駐車場の利用台数は約2倍

○空港利用者の約4割が名古屋市及び尾張方面の住民

緊急雇用対策 県営名古屋空港利用実態調査結果

調査目的：平成 22 年 2 月に開港 5 周年を迎える県営名古屋空港の利用実態を把握し、空港の認知度の向上と利用客の増加等、今後の展開を検討する基礎資料とする。また、本業務は緊急雇用創出事業基金事業として、離職を余儀なくされた非正規労働者、中高年齢者等の失業者に対して、次の雇用までの短期の雇用・就業機会の創出・提供を目的とする。

調査主体：愛知県

調査協力：県営名古屋空港協議会

調査内容：① 県営名古屋空港定期航空路線利用実態調査
② 県営名古屋空港アクセス調査
・交通量調査、駐車場状況調査、バス利用状況調査、タクシー利用状況調査
③ 地域住民のニーズ調査

調査対象：① 県営名古屋空港に離発着する通勤用航空を利用する旅客
② 県営名古屋空港周辺道路、県営名古屋空港駐車場、空港アクセスバス利用客、タクシー利用客
③ 空の日・空の旬間記念行事イベント参加者

調査実施：① 【通常期】平成 21 年 7 月 10 日（金）～16 日（木）
【繁忙期】平成 21 年 8 月 10 日（月）～16 日（日）（盆休暇期間を含む）
② 【通常期】平成 21 年 7 月 15 日（水）晴れ
【繁忙期】平成 21 年 8 月 12 日（火）晴れ
③ 【募集開始】平成 21 年 9 月 1 日（火） 【回収期限】9 月 11 日（金）

調査方法：① 【アンケート】利用者自記式（場所：搭乗待合室及び手荷物受取所）
【ターミナルへの入出場数】マニュアルカウンターによる計測
② 【交通量】各交差点および断面の自動車、歩行者等の数量を方向、時間、車種別にマニュアルカウンターにより計測
【駐車場】県営名古屋空港の車寄せスペースを利用する車両台数をマニュアルカウンターにより計測（駐車台数は指定管理者のデータを利用）
【バス】 県営名古屋空港に発着するバス全便の利用者に対し起終点調査（OD 調査）を実施
【タクシー】 タクシー昇降場における利用客へのヒヤリング式アンケートの実施
③ 空の日・空の旬間記念行事イベント参加希望者をアンケートに回答する条件にて公募

調査票：① 【通常期】2,536 件 【繁忙期】3,328 件

回収結果 ② バス 【通常期】1,708 件 【繁忙期】1,426 件
タクシー【通常期】92 件 【繁忙期】72 件

③ 1,022 件

1 県営名古屋空港定期航空路線利用実態調査

1-1. 旅客アンケート調査

(1) 旅行の目的地

就航先では「福岡県」、愛知県内では「名古屋市内」「尾張方面」が多い。

旅行の目的地は、就航先では通常期（30.3%）、繁忙期（22%）ともに「福岡県」が多く、就航元では愛知県が約7割（通常期75%、繁忙期68.9%）となっている。

また、愛知県内では（図1-1）、通常期は「名古屋市内」が約7割を占め最も多く、ビジネス等で中心市街地を訪れる利用者の割合が高いことがうかがえる。一方、繁忙期は「名古屋市内」以外の目的地の合計が約半数を占め、「尾張方面」を中心とした帰省に名古屋空港が利用されていることが考えられる。

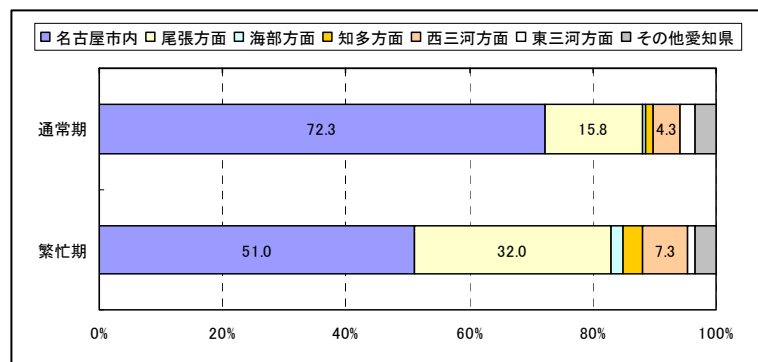


図1-1. 目的地（愛知県） [n=通常期：513 繁忙期：453]

(2) 旅行の目的

通常期は製造業を中心としたビジネス、繁忙期は私用の利用が多い。

利用者の旅行目的（図1-2）は、通常期は「商用・公用」が約5割であるのに対し、繁忙期は盆期間の帰省客の増加から「私用（帰省・冠婚葬祭等）」が約7割を占め最も多くなっている。なお、ビジネス利用の業種は「製造業」「その他のサービス業」「卸売業/小売業」で約6割を占める。

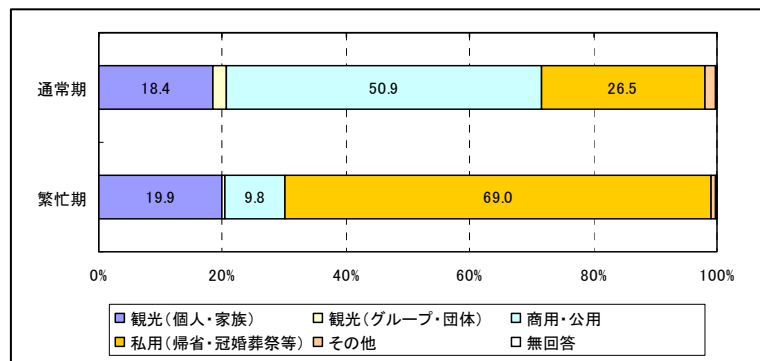


図1-2. 旅行の目的 [n=通常期：2,536 繁忙期：3,328]

(3) 旅行の期間

通常期は「日帰り～3日間」の短期間旅行、繁忙期は「3日間～7日間」が多い。

旅行の期間は、通常期は「日帰り～3日間」が中心（74.3%）であるが、繁忙期は盆期間の帰省客の増加から「3日間～7日」の長期間の旅行（78.5%）が多くなっている。

(4) 交通機関

県営名古屋空港利用の際の交通手段は自家用車利用が全体の約6割を占める。

県営名古屋空港への最終交通機関、または空港から目的地までの最初の交通機関は、通常期・繁忙期ともに「自家用車」が約6割（駐車場利用、車寄せスペース利用の合計 通常期 56.3% 繁忙期 63.8%）を占め、次いで「直行バス（名古屋駅）通常期 24.7% 繁忙期 18.7%」となっている。

なお、「自家用車（駐車場利用）」のうち約5割が「駐車場が5日間無料だから」をその理由に挙げている。

(5) 県営名古屋空港を利用した理由（中部国際空港にも就航している路線）

県営名古屋空港を利用した主な理由は、「自宅・会社等から近い」「発着時刻の都合が良い」「駐車場が5日間無料」が中心である。

県営名古屋空港と中部国際空港の両方に就航している路線（「秋田」「新潟」「松山」「熊本」「長崎」「福岡」）の利用者が県営名古屋空港を選択した理由は、「自宅・会社等から近い」5割を超え（通常期 52.6% 繁忙期 60.1%）、次いで「発着時刻が良い」「駐車場が5日間無料」「JALのマイレージに加入している」がそれぞれ約2～3割を占めている。

「発着時刻が良い」については特に「秋田」行きで54.6%と高い割合を示した。

(6) 利用者の居住地

時期を問わず、利用者の約5割以上が県営名古屋空港周辺に居住する人である。

県営名古屋空港の利用者の居住地については、「愛知県」が最も多い（通常期 51.1% 繁忙期 61.0%）。また、このうち「名古屋市」「尾張方面」の占める割合はそれぞれ約4割（通常期 39.3%、41.5% 繁忙期 40.1%、39.2%）であり、県営名古屋空港がこれらの地域の重要な交通機関として機能していることがわかる。

(7) 性別と年齢層

通常期は40歳代の男性が中心、繁忙期は30歳代以下の男女が多い。

利用者の男女比は、通常期は「7：3」、繁忙期は「6：4」であり、男性利用者の割合が高い。また、年齢層は、通常期は「40歳代」「50歳代」が多いのに対し、繁忙期は「30歳代」以下の若い世代の利用者の割合が増加している。

(8) 県営名古屋空港に対する意見・要望（複数回答）

ダイヤ、空港アクセス、空港内施設の充実、中部国際空港との共存の意見・要望。

県営名古屋空港に対して寄せられた代表的な意見・要望は「ダイヤ」「空港アクセス」「売店・飲食店」「中部国際空港との比較」。

「ダイヤ」に関しては、便数や就航地の拡大、発着時刻の見直しなど、特に通常期はビジネス（出張）で県営名古屋空港を利用する人が多いことから、出張に都合のよいダイヤ設定が求められている。

「空港アクセス」に関しては、直行バスの増便や、愛知県西・北部地域への路線拡大、航空便の離発着に合わせたダイヤ調整を求める要望が多く、利用者は現状を概ね「公共交通機関が使いづらい」と感じている傾向にある。

「売店・飲食店」に関しては、土産物店やレストランの増床、品揃えの拡充を求める意見が多い。

また、「中部国際空港との比較」に関しては、役割・メリットを明確にし、今後も両者が共存していくことを期待する意見・要望もあった。

1-2. ターミナルビルへの出入カウント調査

繁忙期の利用者は通常期の約6割増。繁忙期は週末のUターンラッシュがピーク。

7日間の出入人数の総計は通常期は15,436人/日、繁忙期は24,309人であり、繁忙期は通常期に比較し約6割増加している。

出入人数の日変動（図1-3）を月曜日からみると、いずれも週末に向かい徐々に増加の傾向をみているが、入場人数において通常期は金曜日が最大となっており、繁忙期は盆帰省のピーク（水・木曜日）も伸びている。一方、出場人数は通常期、繁忙期ともに日曜日がピークとなっている。

通常期は週末の短期間旅行が中心であり、繁忙期は調査期間が盆にあたることから、週の半ば（8月12日、13日）の出発客や最終日の帰省客が増加したことが考えられる。

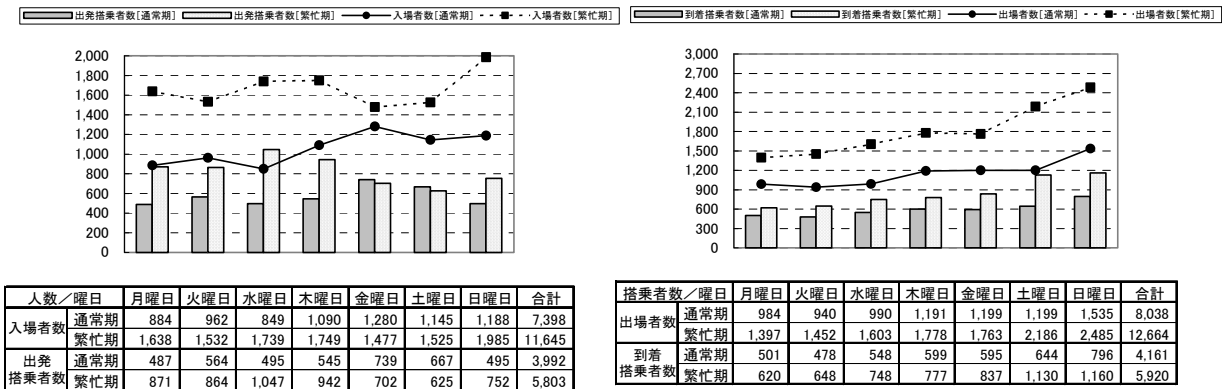


図1-3. 出入人数と搭乗者数の日変動

2 県営名古屋空港アクセス調査

2-1. 交通量調査

繁忙期に県営名古屋空港とエアポートウォーク名古屋への接続道路の交通量が増加。

県営名古屋空港周辺の交通量を通常期と繁忙期で比較すると、県営名古屋空港およびエアポートウォーク名古屋に接続する道路の自動車交通量が繁忙期で約 2～5 割の増加をみており、歩行者・自転車交通量も同様に約 1～3 割の増加をみている。

2-2. 駐車場状況調査

繁忙期に県営名古屋空港に来港する自動車の台数が通常期の約 2 倍以上に増加。

「交通量調査」の結果と同様に繁忙期に来港する車両は増加し（図 2-1）、送迎で車寄せスペースを利用した車両（駐車場利用なし）と駐車場に入場した車両の合計は通常期の約 2 倍以上となった。

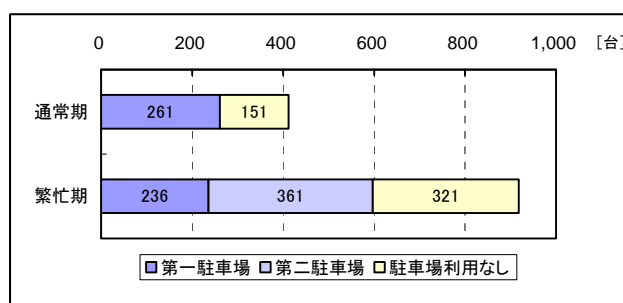


図 2-1. 来港台数の比較

2-3. バス利用状況調査

バス利用者は通常期の方が多く、空港アクセス以外の目的にも利用されている。

県営名古屋空港に発着する直行、路線バスの利用人数を通常期と繁忙期で比較すると、3 路線（名古屋駅⇄空港、西春駅⇄空港、勝川駅⇄空港）の総計が通常期は 1,708 人/日、繁忙期は 1,426 人/日であり、通常期が約 2 割程度多くなっている。このことから通常期では、出張者が名古屋駅より直行バスを利用する傾向が高く、繁忙期では、帰省等の私用の利用客が自家用車を利用する傾向が高いことがうかがえる。

また、路線別にみると（図 3-2）名古屋駅発着路線は名古屋空港で乗降する人数が最も多く、空港直行バスとして機能している一方、西春駅発着路線に関しては沿線各地と鉄道駅を結ぶ一般的な路線バスとしての位置づけが強い。

なお、名古屋駅および勝川駅発着路線においても各駅～豊山町・エアポートウォークの通勤・買物の利用者もあり、空港直行バスおよび路線バスの両方の役割を担っている。

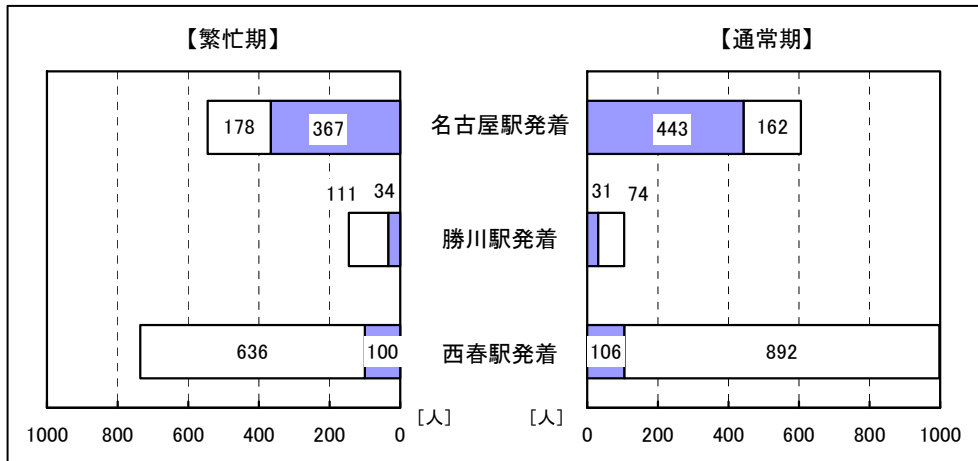


図 3-2. 通常期と繁忙期におけるバス利用人数の比較

※青部分はうち各発着駅～名古屋空港を利用した人数（名古屋駅発着は名古屋米を、勝川駅発着は味美駅を含む）

2-4. タクシー利用状況調査

県営名古屋空港の周辺を出発地、目的地とする人がタクシーを利用している

タクシーの利用台数の総計は、通常期は 92 台/日、繁忙期は 72 台/日である。この台数の差は繁忙期に県営名古屋空港から駅や会社・出張先に向けての利用が全くなかったことが大きく影響している。

タクシー利用者に出発地または目的地を尋ねたところ、小牧、春日井市、名古屋市北・東区といった県営名古屋空港の周辺地域を中心に、通常期では名古屋駅のある中村区とする利用者もあった。出発地から空港までの所要時間の平均は約 20～30 分程度であり、利用者の属性は 40～50 歳代の男性が中心である。

3 地域住民のニーズ調査（空の日・空の旬間記念行事イベント参加希望者対象）

（1）居住地

イベント参加希望者の約 7 割が県営名古屋空港の周辺に居住する人である。

イベント参加希望者の居住地の内訳をみると「尾張方面（36.9%）」と「名古屋市内（35.9%）」に居住する人の内訳が多く、県営名古屋空港周辺住民にイベントがより認知されていることがうかがえる。

（2）来港目的

県営名古屋空港は地域住民のレジャー・買物の場としても貢献している。

県営名古屋空港への来港目的として仕事（9.3%）や航空機の利用に関わる目的（旅行 28.8%、送迎・出迎 15.4%）以外にも「イベントへの参加（25.1%）」の

割合が多くなっている。また、その他の目的の代表例として「見学・散歩」「買物（エアポートウォーク名古屋利用）」が多く挙げられている。

(3) 交通機関

自家用車（駐車場利用）による来港が最も多い

「県営名古屋空港定期航空路線利用実態調査」の結果と同様に、自家用車による来港が中心となっており全体の約 8 割（定期航空路線利用実態調査では約 6 割）を占めている。このことから空港利用者の中でも地元の利用者がより自家用車を利用して来港する傾向がある。

(4) 県営名古屋空港に関する意見・要望

県営名古屋空港に対し地域の活性化の役割が期待されている。

意見・要望については、「県営名古屋空港定期航空路線利用実態調査」の結果と同様に、現行ダイヤに関して、便数・路線の拡大を求めるもの、公共交通等のアクセス面において、中部国際空港と比較して不便であるとの意見が挙げられた。

また「子供に飛行機を見せたい」「イベントを増やしてほしい」といった地域住民に身近に感じられる意見・要望も寄せられ、これらのニーズに対応した地域に密着した空港として、県営名古屋空港周辺地域の活性化に寄与することが期待される。